

スタッフ招聘事業の目的

山口ケニアを知る会では、ケニア共和国のクワボンザ村やミー村などの住民と、顔の見える国際交流を目指して、ケニアへのスタディーツアーなどを実施してきました。しかし、現地への訪問が難しい支援者の方々などから「ケニアの人達から生の声を聞きたい」という要望がありました。また、ケニア側でも日本での活動や支援者の状況が理解されにくいという問題があります。

このような背景から、ケニアでの活動に深く関わるステンシラス・ピングウ氏（クワボンザ村・ミクユニ自助グループ代表）とカロキ・ムトゥル氏（現地コーディネーター・ミー村出身）の二人を日本へ招き、彼らから村の現状を聞くと共に交流を深め、これからの活動のあり方を互いに話し合う機会にしたいと考えています。



クワボンザ村とミー村の位置

来日スタッフ紹介

ステンシラス・ピングウさん ケニア林業調査研究所で20年間勤務し、日本人技術者と共に植林を通じた住民の生活改善に取り組みました。1993年、クワボンザ村で青年海外協力隊員をしていた高見や照井と出会い、村の有志らと共にミクユニ自助グループ（MSHG）を結成し、村人の生活向上のために尽力します。彼の献身的な言動と温かい人柄などから住民の信頼を得て、ミクユニ小学校のPTA会長や村の福祉組長としても活躍し、2007年にはクワボンザ郡選出国民議会（国会）議員に当選しました。何にでも積極的に取り組む性格で、自宅を設計し、村ではまだ数少ない太陽光発電器機も設置するなど、新しい技術も積極的に活用しています。（53歳）



ステンシラス・ピングウ氏



カロキ・ムトゥル氏

カロキ・ムトゥルさん ナイロビ市内で小さな自動車修理工場を経営しており、車の運転と修理には高い技術を持っています。以前、横浜で自動車技術関連の研修を受けたこともあり、日本語を少し話すことができます。優しい性格で、人々からの信頼も厚い方です。高見や照井の協力隊時代からの友人であり、現地コーディネーターとして活動をサポートしています。彼の故郷・ミー村もクワボンザ村同様に多くの困難を抱えていることから、少しでも村の役に立ちたいと願いミー村自助グループのコーディネーターとして教育支援等に取り組んでいます。彼の活動を通してミー村との交流が始まりました。（43歳）

青年海外協力隊と繋がった日本の人達

- | | | |
|----------|----------------------|----------------------|
| 荒瀬澄枝 さん | 山口県青年海外協力隊を育てる会 副会長 | （小さなハートプロジェクトで隊員を支援） |
| 安田明子 さん | 「山口ケニアを知る会」を知らせる会 代表 | （ケニアの子ども達に通学バックを贈呈） |
| 石井由利子 さん | 山口ケニアを知る会下関支部 支部長 | （ケニアと下関の児童の手紙交流を実施） |

<会場へのアクセス>

パルトピアやまぐち/防長青年館

〒753-0064
山口県山口市神田町 1-80
TEL 083-923-6088
FAX 083-923-0992

